

事項	高冷地夏秋2期どり栽培におけるいちご「北の輝」の収量性	
ねらい	夏秋どり栽培に適した「北の輝」で遮光処理することにより短日処理と同等の高い花芽分化促進効果が認められ、8～10月どりが可能になった。この夏秋どりした株を据え置き、翌年に7～8月どりした場合の収量及び夏秋2期どり栽培の収量が明らかになったので参考に供する。	
指導参考内容	<p>1 夏秋2期どり栽培（2期目）と収量</p> <p>(1) 平場において、5月初め又は6月初めから約1か月間遮光処理をしたいちご「北の輝」を高冷地に5月下旬又は6月下旬に定植し、8～10月に収穫（1期目）した後、据え置きした株を用い、翌年消雪後に1株当たり2芽程度に摘芽する。</p> <p>(2) 追肥は、窒素、りん酸、カリを各0.6kg/a程度を、消雪直後及び生育に応じて、かん水チューブで2～3回に分けて行う。</p> <p>(3) 収穫期間は、7月上旬～8月上旬である。</p> <p>(4) 上物収量は、高冷地における露地普通栽培に比べて多く、100～120kg/a程度見込める。</p> <p>2 夏秋2期どり栽培の合計収量</p> <p>合計上物収量は200～230kg/aとなり、露地普通栽培に比べて約3～5割増の収量が見込める。</p>	
期待される効果	販売価格が高い夏秋どりした後、株を据え置き同じ株を使い、翌年また収穫することにより、高収益が期待される。	
利用上の注意事項	<p>1 「北の輝」は収穫期に雨に当たると裂果しやすいので、開花始期ころから雨よけ栽培とする。</p> <p>2 夏秋2期どり栽培は1期目の定植から2期目の収穫までが栽培期間となるので、農薬の使用回数に注意する。</p> <p>3 遮光処理の方法等については、平成15年度指導参考資料「高冷地夏秋どり栽培におけるいちご「北の輝」の遮光処理による花芽分化促進効果」を参照する。</p>	
担当	青森県農林総合研究センター 水田利用部	対象地域 県内高冷地
発表文献等	<p>平成14年度 青森県農業試験場試験成績概要集</p> <p>平成15～16年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集</p>	

【根拠となった主要な試験結果】

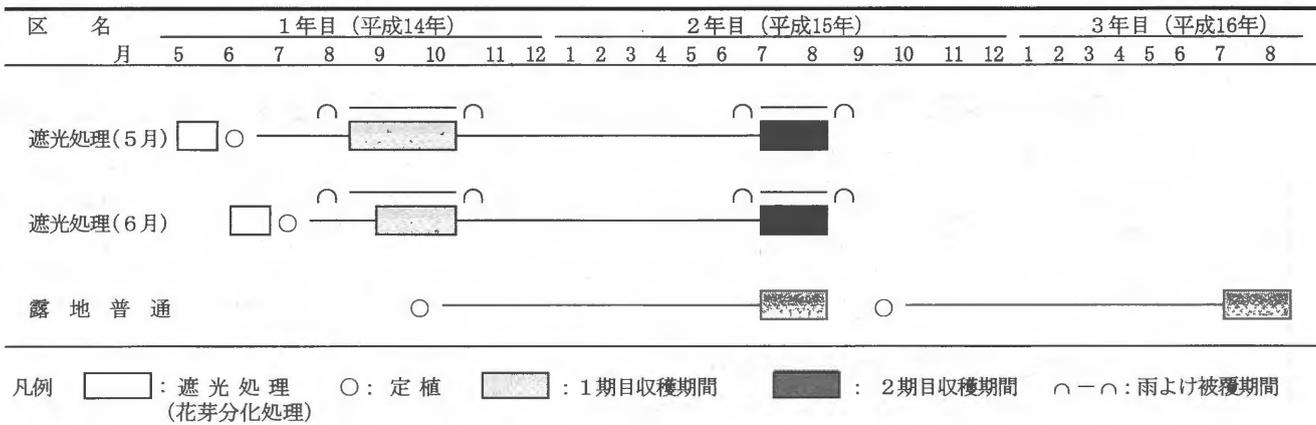


図1 作型

表1 遮光処理期間と定植時期 (平成14 青森農試、平成15~16年 青森農林総研)

区名	遮光処理期間	定植時期	
		H14	H15
遮光処理(5月)	H14 5/1~5/28	5/29	—
遮光処理(6月)	H14 6/1~6/26	6/27	—
露地普通	—	9/13	9/12

表2 夏秋2期どり栽培における収穫期間と収量 (平成14年 青森農試、平成15~16年 青森農林総研)

区名	H14 上物収量(kg/a)				H15上物収量(kg/a)		H16上物収量(kg/a)		合計上物収量(kg/a)	同左比(%)
	8月	9月	10月	計	収穫期間	上物収量	収穫期間	上物収量		
遮光処理(5月)	60.8	13.3	3.6	77.7	7/2~8/5	124.4	—	—	202.1	129
遮光処理(6月)	—	94.8	39.8	134.6	7/2~8/5	105.1	—	—	239.7	153
露地普通	—	—	—	—	7/4~8/9	71.2	7/5~8/4	85.0	156.2	100

(注) 耕種概要 育苗: 平場(青森農林総研)、定植: 高冷地(平賀町善光寺平)、栽培方法: 露地普通以外は雨よけ栽培、遮光処理その他: 平成15年度指導参考資料「高冷地夏秋どり栽培におけるいちご「北の輝」の遮光処理による花芽分化促進効果」を参照。

(参考)

粗収益

(平成14年 青森農試、平成15~16年 青森農林総研)

区名	H14 粗収益(万円/a)				H15 粗収益(万円/a)	H16 粗収益(万円/a)	合計(万円/a)	同左比(%)
	8月	9月	10月	計				
遮光処理(5月)	9.8	2.1	0.5	12.4	14.7	—	27.1	147
遮光処理(6月)	—	14.9	5.8	20.7	12.4	—	33.1	180
露地普通	—	—	—	—	8.4	10.0	18.4	100
単価(円/kg)	1,620	1,574	1,460	—	1,180		—	—

(注) 単価はT農協データを参考にした。